

・立埜原 (2004) ・ ・ 印西市

35・49・32N 140・13・56E



1. ハクチョウ類飛来状況 (20011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	18	28	18	24	13	20
コハクチョウ	1200	562	1,138	829	643	874
類合計	1218	593	1,160	853	656	896

2. 選定地の状況

千葉県北部、丁度チーバくんの顔に当たる西の野田から東の銚子にかけて下総台地が広がっている。チーバくんの目に当たるところには、印旛沼があり、約5.2 haの北部調整池と印旛放水路で繋がって南西に約5,6 haの西部調整池がある。その北部調整池の北西の約3 kmに「白鳥の郷」がある。

2002年(平成4年)の11月にポンプの故障で水が張られた田に白鳥4羽が降り立った。給餌を開始し、平成6年には12羽がやってきた。給餌は、朝10時と午後4時の2回、古米を与えている。今年は、約1300羽が羽を休めている。飛来は10月中から下旬、翌年の2月初めに北へ飛び立っていく。観察は、周りの道路からに限られている。ほとんどがコハクチョウで、一部がオオハクチョウ、今年はアメリカコハクチョウも見られた。最寄の駅は、JR成田線小林で、駅から東へ約2.6 kmの距離。

(選定協力員 花積 三千人)

・夏目堰 (3014) ・ ・ 東庄町

35・47・0N 140・40・46E



1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	300	18	8	10	2	68
コハクチョウ	1,000	564	696	449	252	592
類合計	1,300	582	704	459	254	660

2. 選定地の状況

千葉県北東部、利根川にほど近い東庄県民の森にある八丁堰（夏目の堰）に 11 月から 3 月初めにかけて白鳥がやってくる。堰では餌付けをしておらず、昼間は、町の南西部から旭市北西部に広がる水田地帯（干潟十萬石）で二番穂などの餌を食べに出かけ、夕方堰に戻ってくる。ここには、9 年前の 2007 年（平成 19 年）から白鳥が飛来するようになり、今年 (2016) は 800 羽が越冬した。そのほとんどはコハクチョウでオオハクチョウは数十羽。堰で定常的な餌付けは行われておらず、訪れる人が時折パンくずを与えている場面には出会う。周囲に人家は、少なく、堰の背面は県民の森のある小高い丘となっている。

(選定協力員 花積 三千人)